連結決算ハイライト

当期の売上高は前期比8.0%増の1,997億2千7百万円となりました。利益面では、増収効果に加え、売上構成の変化により粗利率が改善したことから、営業利益は前期比74.8%増の270億9千4百万円、経常利益は為替差損益が差益に転じたことから前期比91.1%増の283億7千4百万円となりました。また、新型コロナウイルスの感染拡大に伴う海外でのAEDの需要減少を受け、2012年に買収したデフィブテック LLCの将来計画を見直したことから、のれん償却額および減損損失を特別損失として計上しました。これにより、親会社株主に帰属する当期純利益は前期比85.1%増の182億4千3百万円となりました。

<国内市場>

国内売上高は前期比2.2%増の1,372億7千4百万円となりました。検査・手術の減少や予算執行の延期・凍結の影響があったものの、年度末にかけて感染症患者受入れのための医療提供体制整備が進み、官公立病院、私立病院市場が好調に推移しました。PAD市場におけるAEDの販売も好調でした。一方で、大学病院市場は前期に受注した新築移転に伴う大口商談の反動により減収となったほか、診療所市場も低調でした。

<海外市場>

海外売上高は前期比23.3%増の624億5千2百万円となりました。新型コロナウイルスの感染拡大に対応するため、生体情報モニタ、人工呼吸器、除細動器の需要が増加したことから、全ての地域で二桁成長となりました。

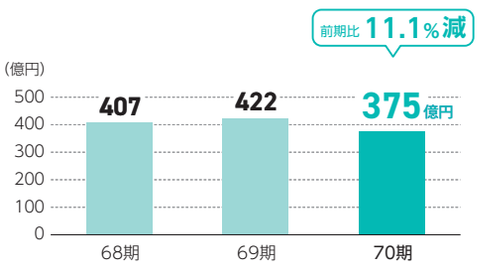
商品群別の概況（連結）

新型コロナウイルスの感染拡大に対応するため、生体情報モニタや、人工呼吸器を含む治療機器の売上が大幅に伸長しました。それ以外の生体計測機器やその他は、需要の鈍化により減収となりました。

❶ 生体計測機器

脳波計、筋電図・誘発電位検査装置、心電計、心臓カテーテル検査装置、診断情報システム、関連の消耗品、保守サービスなど

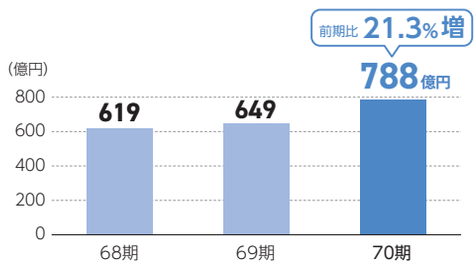
国内	検査・手術の減少や予算執行の延期・凍結もあり、診断情報システム、心電計群、心臓カテーテル検査装置群が低調に推移しました。脳神経系群は前期並みを確保しました。
海外	心電計群は全ての地域で好調に推移したものの、脳神経系群が全ての地域で低調でした。

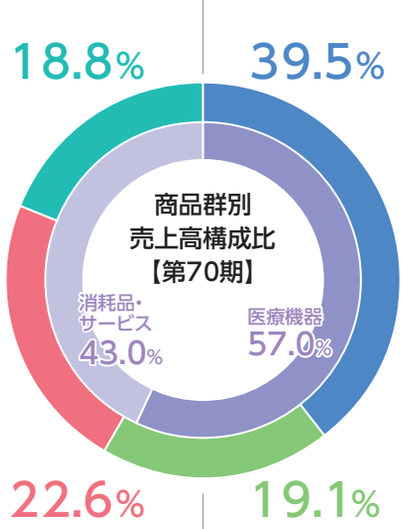


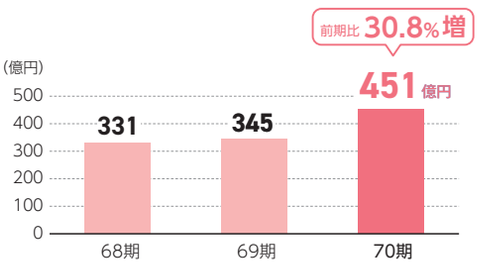
❷ 生体情報モニタ

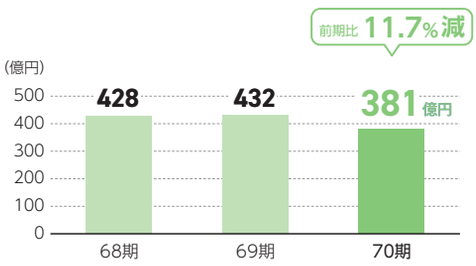
生体情報モニタ、臨床情報システム、関連の消耗品、保守サービスなど

国内	ベッドサイドモニタ、送信機、医用テレメータの需要が年度末にかけて急増し、二桁成長となりました。センサ類などの消耗品も好調に推移しました。
海外	全ての地域で二桁成長となり、特に欧州、中南米での売上が大幅に伸長しました。









❸ 治療機器

除細動器、AED、人工呼吸器、心臓ペースメーカ、麻酔器、人工内耳、関連の消耗品、保守サービスなど

国内	人工呼吸器の需要が年度末にかけて拡大し、大幅増収となりました。AEDは更新商談の受注もあり好調に推移し、医科向け除細動器も堅調でした。
海外	人工呼吸器、除細動器の売上が全ての地域で大きく伸長しました。人工呼吸器は2019年度発売の自社製2機種が寄与し、一定の事業規模に成長しました。AEDは減収となりました。

❹ その他

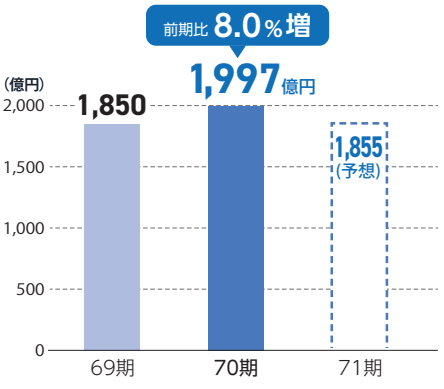
血球計数器、臨床化学分析装置、超音波診断装置、研究用機器、関連の消耗品、設置工事・保守サービスなど

国内	自社品販売の注力により、現地仕入品が大幅減収となりました。
海外	血球計数器・試薬が、需要および検査数の減少により全ての地域で減収となりました。

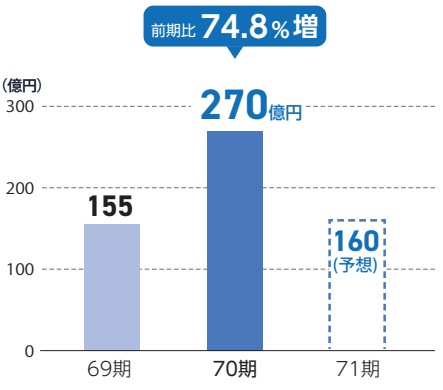
連結決算ハイライト

本資料に記載されている内容は、将来に関する前提、見通し、計画に基づく予測が含まれており、当社としてその実現を約束する趣旨のものではありません。実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

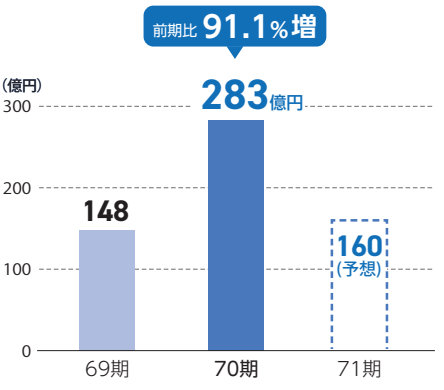
売上高



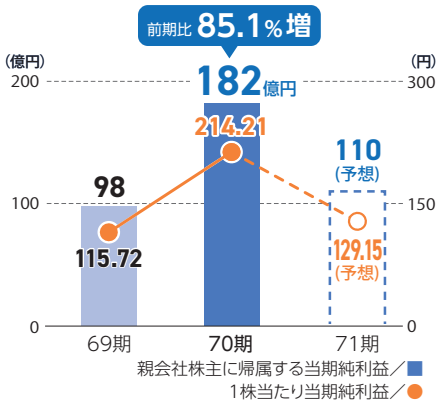
営業利益



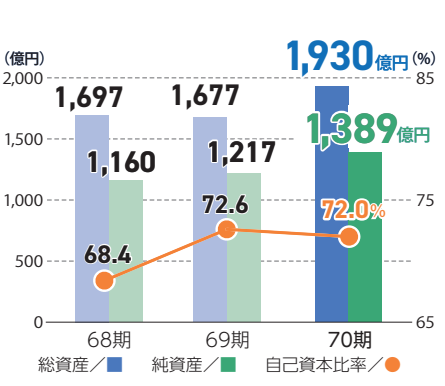
経常利益



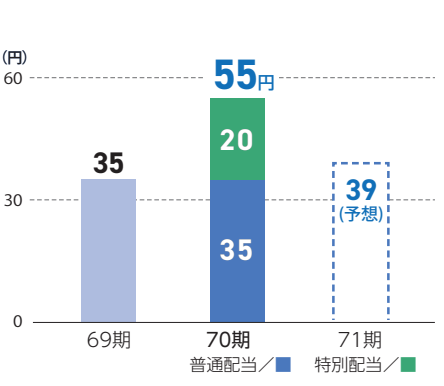
親会社株主に帰属する 当期純利益／1株当たり当期純利益



総資産／純資産／自己資本比率



1株当たり配当金



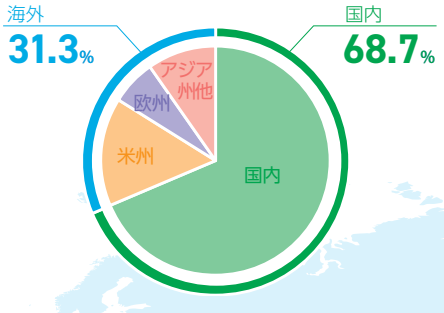
利益配分に関する考え方

優先順位については、①研究開発や設備投資、M&A・提携、人財育成など将来の企業成長に向けた投資、②配当、③自己株式取得としています。連結配当性向は30%以上を目標としています。

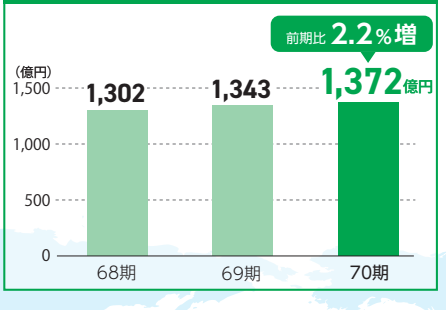
地域別の概況（連結）

米州では、米国、中南米ともに二桁成長となり、特にメキシコ、コロンビアの売上が倍増となりました。欧州では、イタリア、ポーランドでの売上が倍増するなど、西欧諸国、東欧諸国ともに大幅増収となりました。アジア州他では、イスラエル、インドネシアなどでの大口商談の受注が寄与し、二桁成長となりました。中国も感染の影響が一巡し、堅調に推移しました。

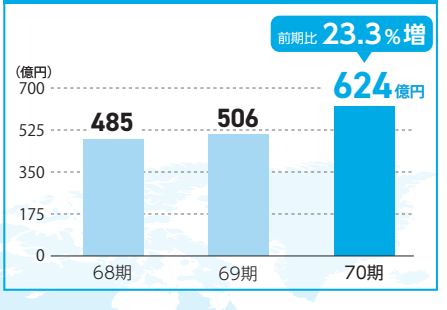
地域別売上高構成比



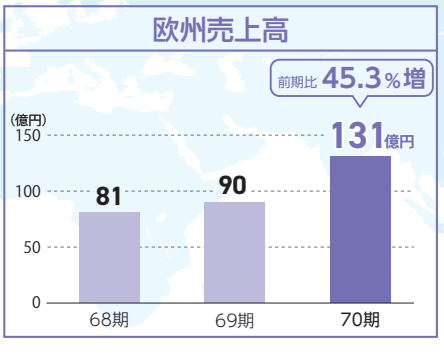
国内売上高



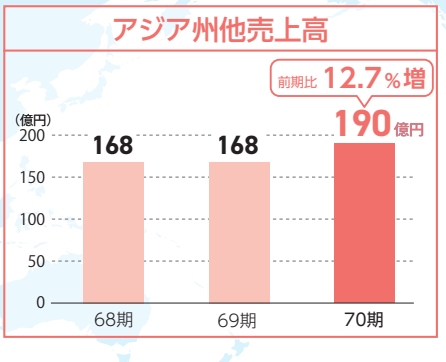
海外売上高



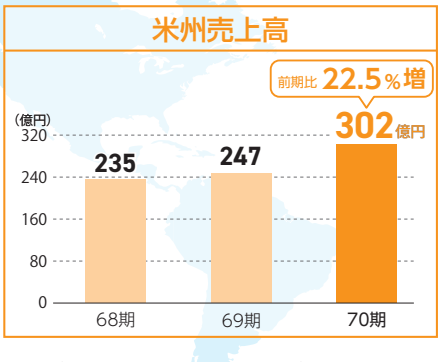
欧州売上高



アジア州他売上高



米州売上高



※70期から、アジア州とその他地域を合わせて、アジア州他としています。